Annual Report 2021

# 2021年度 年次報告書

発行元: 認定NPO法人 地球の友と歩む会/LIFE





皆様、LIFEの活動へのご理解、ご支援を賜り感謝申し上げます。2021年度も無事年次報告を行うことができました。

また、LIFEにおきましては、2021年末に認定NPOの法人格を取得いたしました。これからは、この資格に恥じないように、細心の注意を払いながら活動を進めていきたいと考えています。

さて、新型コロナCOVID-19の蔓延が始まってから3年目になりました。我々の活動も大きく影響を受けていますが、インド、インドネシアの現地NPOの協力のもと、なんとか成果を上げることができました。今後規制が緩和される方向にあるので、徐々に活動しやすくなると期待しています。一方、リモートによる文化交流、料理教室や勉強会などを新たに企画し実施しました。皆様に気軽に参加してもらい、現地の様子を知ってもらう良い機会となったと思います。

今後もコロナによる制限などには柔軟に対応し新しい発想で活動していきたいと 考えています。どうか引き続き皆様のご支援をお願いします。



理事長 横山計三

■略歴 1992年 :

第1回スンバ島ワークキャンプ参加

2015年: 理事・運営委員に就任

2021年: 理事長に就任

#### 役員

(2022年8月時点)

理事長	横山 計三	芝浦工業大学
理事	米山 敏裕	特定非営利活動法人地球の友と歩む会
理事	岩田 雅子	アール・コンサルティング株式会社
理事	上村 真	富士電機株式会社
理事	鷲見 香子	自然電力株式会社
理事	下山 久光	アイ・シー・ネット株式会社
理事	黒岩 竜太	株式会社オルター・トレード・ジャパン
監事	浜走 弘之	社会福祉法人恵和

2022年4月8日に永年LIFEの活動にご尽力されました理事:向當稔氏がご逝去されました。 生前のご厚誼に感謝を申し上げますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

#### LIFEが目指す 社会と支援方針

#### 【目標】ビジョン

インドとインドネシアの農村の人々が自然と共生し自立して暮らせる社会を目指します。

#### 【使命】ミッション

私たちとビジョンを共有する現地NGOと協力し、「水・緑・人」をテーマに支援します。

### 1 水・緑・人で国際協力

人が生きていく上で重要な水と緑。そして自然と共生する村を運営する人の存在が重要です。 そのため水・緑・人を支援分野とし、自然と共生する支援を目標としています。

#### 2 現地の問題は、現地に住む人々が解決する。

日本からの一方的な援助では問題は真の解決を迎えないと私たちは考えています。 問題を解決したい現地NGOまたは行政と必ず協働で支援を実施します。

#### 3 地球の友として、いま私が出来ることを。

現地の状況や文化を理解して市民が積極的に私たちの活動に参加できる機会を提供します。

#### ■沿革

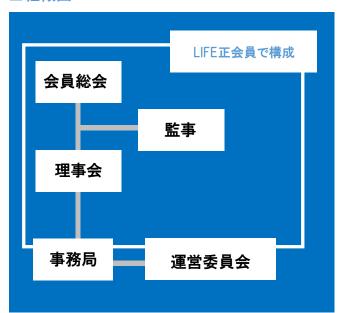
1986年4月	アジア協会アジア友の会東京事務所として設立
1990年4月	インドにて井戸建設の支援および現地との交流を開始
1992年3月	スンバ島にて植林活動および現地との交流を開始
1999年9月	「地球の友と歩む会」として独立、NPO法人格の取得
2016年4月	設立から30周年を迎える  √ インドで農業支援をした村人が3,000人を突破  √ スンバ島での植林本数が延べ約40万本を突破  √ 協働した現地NGO/行政の数が延べ60団体を突破
2021年12月	認定NPO法人格の取得

LIFEは東京都の審査を受け、2021年12月13日より認定NPO法人格を取得しました。 ご寄付は確定申告において寄付金控除の対象となりましたことを報告させて頂きます。

#### ■協働実績(近年)

2015年4月	外務省日本NGO連携無償資金協力でインド有機農業支援を開始
2016年7月	緑の募金の協力でスンバ島でマングローブの植林を開始
2017年4月	労働連合「愛のカンパ」の協力で東スンバ県の小学生支援の開始
2018年4月	ゆうちょ財団の協力でスンバ島で有機野菜作り研修を開始
202年4月	味の素ファンデーションの協力でスンバ島栄養改善支援を開始

#### ■組織図



#### ■事務局メンバー

事務局長 インド担当 米山 敏裕 インドネシア 担当 古賀 麻美 経理 / 国内担当 佐藤 静香

(2022年8月時点)

#### ■目次

#### 02

理事長挨拶 役員紹介 LIFEが目指す 社会と支援方針

#### 03

沿革 協働実績 組織図 事務局メンバー

#### 04

2021年度 インド事業報告

#### 06

2021年度 インドネシア 事業報告

#### 10

インド インドネシア 中長期計画 イラスト

#### 12

団体・個人からの ご協力 ご支援・ご参加の 方法

### 14

会計報告



#### 農産物の加工販売支援

#### 安心して農業に取り組むために



#### 現地の声

研修を受けた農家より

作った農産物を自分たちで売ることができて嬉しいです。 新型コロナの影響で町に失業者が増えて店舗の運営が難し くなってきましたが、市場への出荷は安定して行っています。 これからも自分たちで作って売っていきたいと思っています。 インドでは借金をして農業をしても返済できずに自殺する農家のニュースは珍しくありません。また無理して借金をしても無計画な化学肥料に頼った農業で収穫量が減っている地域もあります。水の確保が難しく1年を通して農業が出来ない農家は、村を出て町で日雇いの労働に出稼ぎにいくケースもあります。しかし収入が安定しているとは言えません。

LIFEでは外務省日本NGO連携無償資金協力の助成を受けて、伝統農業を活用した身の回りの自然物を活用した 農業や農家同志で組合を組織して共同管理の体制を作る などの支援を2018~2020年度に行ってきました。

2021年度は、生産した農産物を農家自身がマーケットで 販売したり、加工品を自分たちで作って売れるようにする 技能訓練を実施しました。

- ① 農家組合による店舗運営や週末開催の市場へ定期出店
- ② 142名の農家が搾油・ピクルスなどの加工研修に参加
- ③ 加工品を店舗や市場で販売することが出来るようになりました

#### 農村女性の就労支援

#### 働きたい女性に仕事を!家庭全体で所得向上を!



現地の声

研修を受けたマンマラスパティ村の女性より

研修でコリアンダーやチリのパウダー加工を学びました。 また搾油機を支援で購入できたのでピーナッツやゴマ、ココ ナッツのオイルも生産出来て、これで町で付加価値をつけて 売ることが出来ます。

男性は村に仕事がなくても出稼ぎ労働で収入を得ること も出来ますが、女性は村の外に出て働きにいくことに抵抗が ある農村が多いです。実の親であっても、村を出て仕事を得 ようとすれば離縁されたり、村八分にされることも。働きたく ても働けない、という悪循環があります。そのため抵抗感が 少ないよう、村内での仕事を増やしたり、農作物の販売と いった内容から、女性の所得を向上させ、家庭全体の収入 向上を目指しています。

2021年度は新型コロナの影響で失業者が増え野菜を買う 人が町から減りました。そのため付加価値をつけて売れるよ うに食品加工の研修を実施しました。庭野平和財団様の緊 急コロナ対策助成で行うことが出来ました。

#### 2021年度:活動結果

- 2ヵ村の女性28人に食品加工研修を実施 1
- **2** 女性が農産物や加工品の販売を実施
- スパイスパウダー約80kg、オイル約470gを生産 **3**

#### 教育ローン運営支援

#### 村の子供たちに、高等教育への進学機会を!



現地の声

教育ローン運営メンバーの女性より

新型コロナの影響で夫の出稼ぎなどの収入が絶たれ、返済を滞納 してしまうメンバーがでてしまいました。そのため地域が近い住人 で新しいSHGを立ち上げました。教育ローンを利用して高等教育を 受ける仕組みを今後も利用していきたいと思います。

タミルナドゥ州では村でも教育への関心や中学校への期 待が大きく、進学率は9割となっていますが、高校、大学とな ると学費を確保できずに諦めている家庭も多いです。また弱 みに付け込んだ悪徳な高利貸しも横行しています。

LIFEでは教育ローンを運営する村の女性が中心メンバー の自助努力グループ(SHG)を作り、子供の高等教育への進 学を希望する家庭に低利子の教育ローンを貸す仕組みを 2012年から実施しています。また入学金などの大金が動か ない時期は、貯まった資金で生活向上のための少額ローン も実施しているSHGもあります。二幸建設(株)のご寄付を元 に実施しています。

2023年度以降はLIFEの支援に頼らず、地元住民の自主 管理で運営していく予定です。

- **1**) 53名が教育ローンを利用して進学
- **(2**) ローン利用者の返済率が約82%
- **(3**) 現地NGOとSHGによる継続運営の検討



#### マングローブの植林支援

#### 荒野のスンバ島に森の復活を!



#### 現地の声

#### 植林をした現地NGO代表のヘンリック氏

マングローブの苗木が100本も盗まれました。とてもショックですし 憤りを感じています。ただ私たちの活動が評価されたのか、今まで 植林していた地域で政府が大規模な植林を行います。私たちは政 府の植林活動を注視しつつ、政府の手が届かない地域で植林を続 けていきたいと思います。 スンバ島の10%ほどしか森は残っていません。昔は香木が輸出産業だったことから「サンダルウッドアイランド」と呼ばれた過去も。乾燥地帯のため2~3カ月しか降らない雨だけでは自然回復は難しく島には荒野が広がっています。海岸もマングローブが広がっていましたが、住民の伐採によって失われています。

LIFEでは過去に植林したマングローブから採取した種を苗木に育ててから植林を行っています。スンバ島でも新型コロナの流行で大規模イベントは県から禁じられています。そのため周辺住民等を募った植林はせず、現地NGO職員が1本ずつ植えていきました。

この支援は主に日中友好会館様の助成と三菱商事様から のご寄付で実施しました。

- ① 植林し成長した木から1,000個の種を収穫
- ② 収穫した種すべてが成長し、うち900個は植林済み
- ③ 植林地の変更に伴う自然環境の調査や測量の実施



現地の声

ライパンダック村で研修を受けた住民

皆様からの支援(主に「ひまわり募金」)で洪水で流された農地を再び開墾することが出来ました。ありがとうございます。また完成したキッチンのおかげで子どもたちは学校で昼食を食べることができ、保護者の収入に繋がる農業研修はとても助かります。

スンバ島東部の農村にある小学校の子どもたちを視察すると食事は夕食の1回だけという児童が多くいます。給食はなく、周りに食堂などもないため弁当が必要ですが、貧困からを用意することが出来ない家庭もあります。

2021年度から本格的に栄養改善支援を開始しました。ライパンダック小学校をモデル地とし、現地NGOと東スンバ県の協力で行っています。村で身の回りの自然物を利用した有機農業を実施することにより住民の収入向上を目指し、小学校では生産した野菜を利用した昼食を児童に提供します。この支援は味の素ファンデーション様の助成と皆様からのご寄付で実施しました。

#### 2021年度:活動結果

- ① 給水設備の設置や農業研修の実施で空心菜や トマトなど約8種類の野菜を生産
- ② バイオガスを利用したキッチンの建設と献立の作成
- ③ 完成したキッチンで調理し約30名の児童に昼食提供

#### 小学生の通学バッグ支援

#### 手づかみで荷物を持ち通学する子供たちをなくす



#### 現地の声

#### 通学バッグの制作に従事した男性

新型コロナの影響で失職中でした。通学バック制作は女性だけ で運営していたせいか、材料の買い出しやスンバ島への発送や 梱包などに手間取っていたので、雇用されました。ジャワよりも 大変そうなスンバ島の子どもたちに役立てられて嬉しいです。 貧困家庭では文具や通学バッグを買いそろえることが困難で荷物を手づかみで持ち片道2時間を裸足で歩く子どももいます。東スンバ県教育局からの要請で、東スンバ県の農村部の約120の小学校に通学バッグを配付するプロジェクトを実施中です。バッグはジャワ島の貧困世帯の主婦たちが中心となり制作しています。この支援は労働連合様の愛のカンパ助成を受けて2017年から継続して実施してきました。

新型コロナの影響で通学バック制作や輸送の停止などもあり計画が遅れていましたが予定数量を作ることが出来ました。 2021年9月までスンバ島では小学校が休校、再開後も分散登校が続き、学校の現場は日常に戻っていません。通学バック制作の支援は2021年度で終了し、今後は児童などのモニタリング調査を実施予定です。

- 1 2,965個を制作しスンバ島へ発送
- ② 小学生1万人に配付するバッグの制作完了
- ③ バッグ制作をしているジャワ島で雇用の創出

#### スンバ島の図書充実支援

#### 将来の可能性を広げるために本に触れる機会を増やす



現地の声

子ども向け私立図書館を運営する現地NGOより

スンバ島の農村ではスマホもテレビも新聞もなく、本や紙、ペンもない家庭が多く、文字に触れる機会がほとんどありません。スンバ語などの地元の言語で普段は話すため、学校で初めて触れる文字とインドネシア語に多くの子どもが戸惑っています。日本からの絵本で子どもたちが文字に興味を持つようになり、感謝しています。

スンバ島ではオーストラリア政府によって学校図書の充実 支援が実施されています。また子供の通学意欲を上げるため の工夫をする学校も増えてきました。しかし町から離れた僻地 の学校には図書がなく、また東スンバ県の教育局と現地NGOか らの要請もあり絵本の寄贈を進めることにしました。

日本で出版された絵本に、インドネシア語の翻訳を貼って現地に贈呈しています。日本の絵本はインドネシアで出版されている絵本と違い、フルカラーで絵が大きくて可愛いく、装丁もしっかりしているとのことで好評です。

この活動は永岡書店様のご協力、日本でのボランティア活動参加者様、皆様からのご寄付、絵本の寄贈によって行うことが出来ました。また現地からのビデオレターをYouTubeで公開しています。

ビデオレター 公開中

#### 2021年度:活動結果

- ① 約200の個人・団体が絵本の翻訳貼りボランティアに参加
- ② 約850冊の絵本を10回に分けてスンバ島へ発送
- ③ 学校への本格配付は新型コロナの影響で遅延中

#### 協働支援事業

#### バリ島北部:水道運営の基盤整備支援事業



バリ島北部の水資源について調査を行っていた日本人3名 の協力依頼を受け、今までの給水活動の経験値の共有が出 来るならばと事業の協働を2020年度より行っています。

バリ島はスンバ島とは比較にならない観光地ですがリゾート開発が進む南側と、山々を隔てた北部では状況が異なります。支援地域として定めたプダワ村では、住民が自主的に水道を運営しています。しかし運営の不十分さ、給水設備管理の技術不足などで、水道を使用出来ているのは村の2割しかない状態です。

この問題を解決するにあたりLIFEは主に支援の全体監督 やアドバイスを行っています。今年は日本国際協力財団様の 助成を受けて実施し、2022年度で終了予定です。

#### LIFE側担当:米山コメント

3年前から開始された給水施設運営管理事業も3年目(2022年度) にしてようやく日本人も渡航して進捗を確認したり補修工事の点検 や技術研修ができました。事業終了後も村民による維持管理 が継続的にできるよう指導にあたっていきます。

- (1) 住人に水の大切さを伝えるワークショップの実施
- ② 住人の工事参画と管理技術の習得
- ③ ウダヤナ国立大学との共同で工事計画の立案



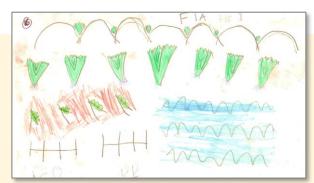


農業を行うた めの基盤整備。 水が重要です。 近くの川にポ ンプを設置し て水道管を設 置することで、 10カ月ほど続 く乾期でも農 業が出来るよ うになりました。



台所で重要な 火の確保。 家畜のフンを 利用したバイ オガス発生装 置の建設写真 です。









#### 栄養改善支援

支援を実施中の小学校で 児童に支援で感じたことを 絵にしてもらい絵画コン クールを実施しました。

優勝は1年生のフィアさん。 放し飼いの家畜から畑を 守る柵、農業で必要な水、 そして育った野菜と注意 深く観察していますね。

一部の児童には昼食を提 供、また保護者には栄養 指導を実施し、盛りだくさ んな支援1年目となりまし



#### 小学生の通学 バッグ支援

2021年度の絵柄。 「キタ アナ スンバ」 私たちスンバっ子 と書かれてます。







通学バックを制作した ジャワ島の方々。 元々はジャワ島地震 で収入が絶たれた家 庭のママさんが立ち 上げた縫製グループ です。

今は新型コロナで失 職した男性たちと一 緒に活動しています。

2031年

農業で生計を立て ることができる

- 1 貧困をなくそう
- ・安定した販路が 確保できている
- ・有機農産物の理解 が進んでいる
- ・子供に将来の職業 として農業を勧め られる

農産物の 販路確保 有機農業 指導者の 育成

2026年

収入のある生活

農業組合が出来て農家が直接収入を 得られる。男性も女性も収入がある。 LIFE設立35周年を 記念してインドと インドネシアの中 長期計画を作成し、 計画の概要をイラ スト化しました。

両地域ともに「貧困をなくそう」が最終目標ですが現況やアプローチ方法が異なります。

10年後の未来に向 け今後も支援活動 を続けていきたい と思います。

2 fight fig

**15** 陸の豊かさも 守ろう



農産物の 販路確保 有機農業 指導者の 育成

女性の 就労を 増やす

村の人たちの手によって

- ・都市に販売店を開店し運営する
- ・農作物の加工品を生産する
- ・指導者を育成し各村で有機農業を普及する

2021年

農業で生活するのが苦しい。

### スンバ島支援 中長期計画イラスト

2031年

島で生計を 立てることができる

貧困を なくそう

自然と共生した開発を目指す

農業 産業

観 自然 光

収入のある生活

高校の授業料を支払える、1日3食、 服は年3枚買える、年収3万円はある生活。

2026年

2 飢餓を ゼロに **\**(\(\) 4 質の高い教育を みんなに  15 陸の豊かさも 守ろう

農業で 収入を得る

小学校に通う 子どもを増やす

植林で 自然の回復

農業をする基盤を用意する 有機農業の研修をする 農産物の販売を行う

通学できる栄養状態にする 識字率や学習環境を改善する マングローブ の植林を行う

2021年

現金収入を得る 手段が乏しい

行き過ぎた伐採等で 自然環境が乏しい

## 団体・個人からの ご協力

ご支援・ご参加の方法



### ご寄付のご協力

(順不同/敬称略)

約400の

団体・個人の方から

二幸建設(株)

三菱商事(株)

(株)ナチュラルプランツ

千代田区社会福祉協議会

愛知製鋼ボランティア基金

MS&ADゆにぞんスマイルクラブ

### サイクル寄付のご協

(順不同/敬称略)

約100の

団体・個人方から

ご<mark>寄付を賜りました</mark>。

NECグループ

大和証券グループ

キッコーマン (株)

愛知県社会福祉協議会

三井ボランティアネットワーク事業団

東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)

ご寄付を賜りました。

### ボランティアのご協

(順不同/敬称略)

TVAC主催:「夏のリモート・ボランティア2021」参加者

スンバ島ポンプ開発ボランティアグループ

千代田区立障害者福祉センターえみふる

チャレンジとしま

三菱商事(株)

約200の 団体・個人の方が 参加されました。

短期および長期インターン 各1名

### 助成金のご支援

(順不同/敬称略)

ゆうちょ財団:NGO講演会等助成

庭野平和財団:緊急コロナ対策助成

日本労働組合総連合会:愛のカンパ

日本国際協力財団:国際協力NPO助成

味の素ファンデーション: AINプログラム

日中友好会館:日中植林 · 植樹国際連帯事業

東京しごと財団:テレワーク推進強化報奨金

千代田区社会福祉協議会:ボランティアグループ

広報活動支援助成金

LIFEは以下の公的支援を受けました。

中小企業庁:第Ⅱ期中小企業デジタル化応援隊事業

※ | 丁専門家とのマッチング支援

## パベント出展●開催

▲ 最初の展示場所:ECOM駿河台



▲ 最後の展示場所:日比谷図書文化館

#### 4月~9月:広報展示リレー企画

SDGSをテーマにした企画を共催しました。 共催団体(敬称略):

千代田区立日比谷図書文化館 千代田区立西神田児童センター 千代田区立障害者福祉センターえみふる ECOM駿河台:三井住友海上火災保険(株)

児童センターと福祉センターの利用者が共同制 作したプラスチックアート展。LIFEも活動紹介 をさせて頂きました。

実施 タイトル一覧



*画面の向こう*は本物のインド

サシレカさんに

南インドカレーの レシピを

教えてもらおう!!



- インドネシア料理ミーゴレンを作ろう!!
- 南インドの家庭訪問!サシレカさんのカレー レシピを教えてもらおう
- 食べて分かる SDGs!インドネシアのキッチン から貧困と栄養について考えよう
- 国際協力NGOの現場から学ぶSDGs (全3回) インド映画から見えてくる社会の課題/食と農 をインドと日本の現場から考える/インド女性の 自立、成果と課題そして展望/





https://life-ngo.peatix.com/

今後のイベント情報はこちら のQR・WEBからご確認できます。

#### 2021年度実績:

- 香川大学法学部
- 専修大学経済学部
- ・各種ボランティアセンター依頼の講義

講演会やオンライン イベントをお考えの 方はLIFE事務局まで ご相談下さい。

謝礼お目安: 2時間6,000円~ (交通費別途)

#### モノを寄贈して支援に



※未使用・消印付きOK



郵便ハガキ ※古くてもOK



全国で使える <mark>商品券・プリペイドカ</mark>ード <mark>(テレフォンカードは</mark>未使用のみ)



日本の古銭や海外のお金



記念コイン・メダルなど ※今は流通してない通貨もOK



LIFE事務局までお送り下さい。 事務局で使用したり、ショップ等で換金します。



本(ISBNコード付き)



DVD・CD・ゲーム

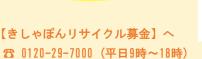


貴金属



ブランド品・時計

宝石や 古美術品など



詳細はこちら

#### 2021年度 会計報告

2022年度会員総会で報告・承認された内容を掲載しています。 詳細はWEBまたは事務局までお問い合わせ下さい。



#### 貸借対照表

2022 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

·			(十匹:11)
科目		金額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	6,890,372		
貯蔵品	953,592		
未収入金	200,000		
流動資産合計		8,043,964	
2. 固定資産			
敷金	780,790		
固定資産合計		780,790	
資産合計			8,824,754
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	558,247		
前受金	873,000		
預り金	68,057		
流動負債合計		1,499,304	
負債合計			1,499,304
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		6,687,579	
当期正味財産増減額		637,871	
正味財産合計			7,325,450
負債及び正味財産合計			8,824,754

#### 会費/種類

#### ●正会員(個人)

年額1口:12,000円

#### ●正会員(団体)

年額1口:20,000円

#### ●賛助会員

年額1口: 6,000円

#### ■ 会員総会について

毎年5月下旬土曜日に会員総会を実施しています。総会では活動報告、会計報告、来年度の計画案、予算案などを話し合い、 LIFEの活動の最終決定をする場です。LIFE正会員のみ参加する ことができます。

#### ■ 会員制度について

NPO法人は正会員が法律上の社員で法人を運営する主役です。 LIFEを支える会員にアナタもなりませんか?会費は法人運営のための管理費として活用されます。

#### 活動計算書

#### 2021年 4月 1日 ~ 2022年 3月 31日 まで

	Т		(単位:円)
科目		金額	
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	434,000		
<b>賛助会員受取会費</b>	378,000	812,000	
2. 受取寄付金等			
受取寄付金	6,161,771		
受取民間助成金	4,573,839	10,735,610	
3. 事業収益			
国際協力事業収益	115,360		
4. その他収益		445000	
受取利息	36	115,396	11 000 000
経常収益計			11,663,006
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費	0.550.400		
給料手当	2,550,400		
通勤交通費	35,864		
福利厚生費	14,000		
法定福利費 人件費計	334,485 2,934,749		
(2)その他経費	2,934,749		
(2)その他経質   海外プロジェクト費	4 400 700		
	4,403,720		
払込手数料 広報宣伝費	512,853		
	134,327 298,963		
通信運搬費 光熱費	68,605		
ー ルが貝 家賃費用	554,086		
水質質用   消耗品費	203,207		
一	17,046		
大概員 旅費交通費	188,060		
諸会費	35,000		
保険料	4,360		
書籍資料代	4,400		
交際費	6,085		
支払報酬	131,072		
助成金返還金	102,310		
その他経費計	6,664,094		
事業費計	5,551,551	9,598,843	
2. 管理費		, ,	
(1)人件費			
給料手当	851,200		
通勤交通費	21,976		
福利厚生費	6,000		
法定福利費	38,364		
人件費計	917,540		
(2)その他経費			
払込手数料	85,174		
広報宣伝費	40,883		
通信運搬費	63,375		
光熱費	20,880		
家賃費用	168,636		
消耗品費	52,189		
会議費	5,189		
旅費交通費	926		
支払報酬	71,500		
その他経費計	508,752		
管理費計		1,426,292	
経常費用計			11,025,135
当期正味財産増減額			637,871
前期繰越正味財産額			6,687,579
次期繰越正味財産額			7,325,450



切手・ハガキ・金券

558,961円

使用済み切手

約80kg 80,000円

海外切手・コイン・その他

約12kg 20,606円

きしゃぽん募金

431,296円

#### 2021年度 与なシペーシ募金の集計結果

「クラウドファンディング& 夏のひまわり募金】

4~10月末

LIFE財政立て直し&スンバ島支援

3, 461, 194円

「クリスマス年末募金】12月~3月末 インドとインドネシアの 村の人に、愛の手を!

1,360,620円

クラウドファンディングのサイ トを立ち上げ、皆様よりご寄付 を賜りましたこと、心より御礼 申し上げます。

おかげで様で2021年度は600万円 ものご寄付を集めることができ ました。

依然として厳しい状況が続いて いますが、南インドとスンバ島 のために努力して参ります。応 援のほどお願い申し上げます。

## 地球と共に、 生きる未来をつくる。



### ≪ 持続可能な開発目標 SDGs ≫

1 貧困を なくそう



LIFEが解決したい 最 重 要 目 標 **1 貧困をなくそう** 







問題解決のために、大切にしたい価値観・目標

**2 飢餓をゼロに 4 質の高い教育をみんなに 15 陸の豊かさも守ろう** 

英語名 LIFE

Live with Friends on the Earth

所 在 地 〒102-0071

東京都千代田区富士見2-2-2

東京三和ビル503

最 寄 駅 飯田橋駅(徒歩5分)

T E L 03-3261-7855

F A X 03-3261-9053

E - mail life@earth-ngo.jp

U R L http://earth-ngo.jp/

銀 行 口 座 ゆうちょ銀行 019支店 (ゼロィチキュウ)

当座預金 0400590

[00180-9-400590]

ロー座 名 特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

認 定 期 間 2021年12月13日 ~ 2026年12月12日

■協賛

サイクル募金

申込ページ



#### ■協力団体

以下の団体が行う非営利団体プロブラムを 利用しています。

### **PRTIMES**













@ life.ngo



これは、JANICの「アカウンタ ビリティ・セルフチェック2012」 マークです。

JANICのアカウンタビリティ基準の4文や(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について問う団体が適切に自己審査したことを示しています。